

県総体週間を振り返る ～全力を尽くした大会～

今年の県総体は昨年度新型コロナウイルスの感染拡大の影響で中止となったため、2年ぶりの開催となりました。本校からは、県総体に弓道部、バスケットボール部、バレーボール部、卓球部、ソフトテニス部、バドミントン部、柔道部の7つの部がそして個人参加として陸上競技に参加しました。またこの県総体期間中に野球の石見地区大会、西部地区吹奏楽祭も開催され参加しました。

県総体の結果は、6月7日（月）に報告会を開き、各部長から報告してもらいました。その結果、コメントをまとめたものをホームページ上に掲載しますのでご覧ください。

今大会は、新型コロナウイルスの感染症対策として入場制限があったため、可能な範囲で校長、教頭で手分けして応援に行かせていただきました。各競技会場では試合までの緊張感、試合が始まってからの集中力、気合いそして、試合が終わって勝ったときの達成感、負けたときの悔しさ等いろいろな表情を直に見ることができ、感情が伝わってきました。そうした想いは、結果報告の部長のコメントにも現れていたと思います。

例えばバドミントン男子団体では、第4シードの松江高専を相手に1勝2敗と追い詰められ勝敗は第2、第3シングルの結果にゆだねられました。その2試合は同時進行で行われました。勝利するためには2試合とも勝たなければなりません。2試合ともフルセットまでもつれ込み、一進一退の攻防を繰り返していました。僅差のまま迎えた相手のマッチポイントで、飛びつくもシャトルがネットを越えずゲームセットとなりしばらくの間その場から立ち上がることができなかつた光景は、悔しいという思い以上によく頑張ったという思いが強く感動的でした。

また、バスケットボールの出雲西との対戦では、時間を使ってじっくり攻めるスタイルで第1クォーターは21対16でリードしました。第2クォーターでは相手の速攻が決まり始め、33対43で逆転されましたが、第3クォーターでは、本校の3ポイントシュートがよく決まり、50対57と7点差まで追いつきました。そして迎える第4クォーターでは、20ポイント挙げるも結果的には70対83で敗れてしまいました。しかし最後まであきらめないプレーで見応えのあるいい試合でした。

この期間中に行われた石見地区野球大会の益田翔陽との対戦でも素晴らしいプレーを見ることができました。3回の表益田翔陽の攻撃で1点追加点を挙げられ0対2でなおも1アウト2、3塁のピンチでセンターの頭上を越えるライナー性のあたりをセンターがダイビングキャッチし、飛び出していた2塁ランナーを刺しダブルプレーで切り抜けました。その後も守備の好プレーで相手を押さえ、5回には、同点に、7回にも1点挙げ逆転しました。結果的には、8回益田翔陽に4点を奪われ、残念ながら3対6でゲームセットとなりました。しかし、1ヶ月前の春季大会と比べると守備力は確実に上がってきていると感じました。夏の大会では期待が持てます。

この大会で部活動を引退する3年生の皆さん今までお疲れ様でした。2年生の皆さんは、1年生と一緒に新体制を構築していきましょう。今回練習の様子から見させていただき、県総体での勝利に向かって打ち込んでいる姿は、とても生き生きとしていて、その頑張りがあったからこそ感動的な試合ができるのだと感じました。感動をありがとうございました。保護者の皆様、ご支援ありがとうございました。今後ともよろしくお願いたします。

